

第1回朝日村中央公民館・周辺施設のあり方検討委員会 意見の整理

①会議の主旨を明確にする

- ・建物をどうするのかの議論か、公民館のあり方の議論か、会議の進め方の確認
- ・会議の目的、主旨をはっきりさせる。

②ハードの前提となる理念大事

- ・理念があって建物のあり方が決まる。
- ・ハードはソフト次第で形が変わる。
- ・公民館と言うより、地域のあり方、人のつながりを前提にしてハードも考えていきたい。

③これからの地域のあり方

(1) 地域の現状

- ・村のお祭りがなくなってしまって神輿がない。
- ・地域の担い手不足。

(2) 地域の旧来の体質の見直し

- ・地域の古い体質も変わらなければならない。
- ・動員等、地域の古い体質は見直しが必要。
- ・役員の負担に疑問。
- ・役員の負担、役を無くすことに共感。

(3) これからの地域コミュニティ

- ・災害が起きても助け合えるか。
- ・生きがいは地域にある。
- ・地域コミュニティを考えながら幸せとは何かを考える。
- ・社会が大きく変化し地域の存在が重要になっている。
- ・自分達で話し合っ、行く道を考えることが社会教育の基本
- ・行政と住民が協働する地域づくり。

⑥対応の道筋・順番

- ・わくわく館の雨漏りの先行改修。

⑦人口減の将来負担にしない

- ・地域に子どもが何人いるか。
- ・人口減の将来負担にしない。

④周辺施設全体としてのあり方(中央公民館の敷地外も含むエリア)

- ・コンパクトにまとまった村の拠点を整備する。

④周辺施設全体としてのあり方(中央公民館の敷地内)

施設の集約化・複合化

- ・現状は施設が離れていて不便。
- ・複合化、集約化ができると1カ所になり遠回りしなくてよい。
- ・利便性や人に会えるよう分散している施設は集約や複合化しまとめることが必要。
- ・複合化・集約化しないと閑散とする。
- ・公民館は敷居が高いが集約化・複合化すると気軽に入れる。
- ・一つに立て直した方が将来の負担が軽くなる。
- ・人口減の中で一極集中の考え方もあり。
- ・人口減の時代に残すべきもの、減らすべきものの検討。
- ・人口が減る中で全体のあり方を考え、集いの場として作り変えていく。
- ・わかりやすい施設。

⑤これからの公民館

(1) 公民館のあり方

- ・公民館は無駄なものと思っている人も多い。
- ・公民館をどうするか見えない。
- ・公民館はまさに小さな村の集まり。
- ・公民館の問題は地域の日常生活を維持する問題。

(2) 公民館の役割

- ・多世代が気軽に集まる場所に。
- ・多世代が集まりやすい施設をつくる。
- ・公民館の目的は集い・ふれあい・分かち合いの場。
- ・人と人のつながりを大切にしたい場に。
- ・人と人、人と地域のつながりをつくる場。
- ・普段のつながり。
- ・人を育てる。
- ・これからは公民館にくつろげる場所が必要。

(3) 気軽に入れる

- ・暗い雰囲気嫌だ。

(4) 子ども達・若い人達の参加

- ・活動が小学生の参加につながらない。
- ・若い人達が公民館に来ない。
- ・若い人たちの意見を聞く必要がある。
- ・若者をどう巻き込むか。
- ・子どもにどう向き合う
- ・子ども達や若い人をいかに入れていくか。
- ・子ども達が活躍できる場をつくる。
- ・未来を担う子ども達のため意見を出し合えたらよい。

(5) 活動・事業

- ・動員ではなく自発性。
- ・活動が続けるには何人か核になる人が必要。
- ・好きなものに会えるきっかけづくりの活動は続けてほしい
- ・自分でやりたいことができる。
- ・障がい者の働く場、理解につながる場になるとよい。
- ・発信する中央公民館。

(6) 導入機能

- ・中央公民館には防災センターとしての役割が必要。
- ・ボランティアセンターとしても使える施設。

(7) 施設の作り方

- ・建物のデザインは凝らない。
- ・安全だけを見守る単純さ。
- ・利用者にとって一番核になるものを大切に。

(8) 使いやすさ

- ・人口減の時代に向け使いやすい施設に。

中央公民館・周辺施設のハードのあり方